

調布市基本計画

概要版

令和元(2019)年度～令和4(2022)年度

みんなが笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布



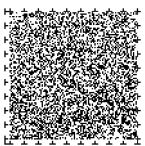


新たな時代に，のびやかに前進し， 花開くまち調布の実現を目指して

調布市は，平成25（2013）年度に，「みんなが笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布」をまちの将来像とする10年間の総合計画（基本構想・基本計画）をスタートさせ，計画的なまちづくりを進めています。

この総合計画の策定と時を同じくして，平成24（2012）年8月に京王線地下化が実現し，それ以降，調布市のまちづくりは目に見える形で躍動的に進展しています。平成29（2017）年には，多摩地域最大級のシネマコンプレックスを含む3館の複合商業施設「トリエ京王調布」や，東京2020大会の競技会場ともなる武蔵野の森総合スポーツプラザが開業し，これらの多摩地域における商業及びスポーツ・文化の新たなランドマークが誕生したことで，調布のまちは一層の賑わいを見せています。

そうした中，2019年のラグビーワールドカップ，2020年のオリンピック及びパラリンピックと，2年にわたって世界最大級の大会が，我がまちを舞台に開催されます。調布市はこれら3つの大会が開催される全国で唯一の基礎自治体です。この好機を最大限に生かし，利便性とうるおいを併せ持つ魅力あふれる豊かなまちづくりを推進するとともに，調布のまちの魅力を市内外に発信し，その成果をレガシーとして，市のまちづくりへの多面的効果につなげて参ります。



一方、高齢化の進行に伴う人口構造の変化や先行き不透明な景気動向の中、税制改正等による減収影響の拡大が予想されるなど、今後の地域経済や市政への影響が懸念されるところです。

そうした中でも、市民に身近な基礎自治体の第一の責務として、防災・減災や子ども・福祉分野における継続的な課題への対応、公共施設の総合的なマネジメントをはじめ、市民の安全・安心の確保と市民生活支援を基調とした各種取組を推進していかねばなりません。

そのため、市政経営においては、引き続き、財政の健全性維持に努めるとともに、組織や施策の枠を越えた連携を図って参ります。

こうした市政を取り巻く状況を踏まえながら、これまでのまちづくりの成果を引き継ぎつつ、今後10年を展望した中で、令和元（2019）年度から令和4（2022）年度までの4年間を計画期間とする基本計画を策定しました。

基本計画の策定に当たり、市議会をはじめ、総合計画策定推進委員、並びにワークショップ（ちようふ未来会議）やパブリック・コメント手続などに御参加いただきました市民の皆様には、心より感謝申し上げます。

30年余り続いた「平成」から「令和」に改まり、新たな時代が幕を開けました。この節目の年にスタートする基本計画において、都市としての付加価値を一層高め、市民生活の質を向上させながら、更にのびやかに前進し、花開くまち調布の実現を目指して参ります。

引き続き、市民の皆様と共に考え、力を合わせて、未来へつなぐまちづくりを進めて参りたいと考えておりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

調布市長

長友貴樹

